

一度きりの人生、元気なうちに行きたいところへ行き、会すべき人に会いたい。退職後20年
間が勝負。

取り急ぎ、退職した夏に世界一周の船旅を計画し、割引の大きい2年前に夫婦で予約。イー
スター島やマチュピチュ遺跡、オーロラ観察など夢のような100日間が待っている、そんな予
定で退職の時を心待ちにしていました。ところが！再任用3年目の夫が「学校楽しい！まだ働
きたい。」と言い出したのです。働きたい人に働かないで、とは言えません。こうして2度とない
激安の世界一周は露と消えました。気を取り直し、早々に年内に小さな旅行を4つ予約。アジア
とヨーロッパへ娘や息子夫婦と出かけます。

退職後は平凡な毎日でも大事。里帰り出産で3月に生まれた初孫と嫁の世話をしながら、せつ
せと習い事に励みます。志摩市の各公民館では、様々な生涯学習講座が開設されています。そ
の中から私は「着付け教室」と「マジック教室」を選択。和服好きの母のDNAがこの歳になって
発現。タンスの中で長い眠りについてた着物たちが、やっと日の目を見ることができます。ま
た、「大きくなったら魔法使いになる」と子どもの頃に夢見た「少女の願い」も叶えられそう。教
室で会う人々は年齢も経歴もさまざま。お互い何のしがらみも気づかいもなく、同じ生徒の立
場で付き合えるところがワクワクします。

また、志摩市にはすばらしいカフェや居酒屋がたくさんあるのですが、友だちや昔の教え子
と平日ランチを楽しんだり、夜の緊急出動を気にせず飲んだりできるのも、小さな楽しみです。
無職の身になったので、断捨離で出てきたがらくたや古着を次々とお小遣い替えています。

37年間の教職生活で大したことは何もできなかったけれど、いつのまにか「子どもたちの
ために」「子どもたちにとって」という思考が体に染みついています。60歳以降は「おまけ」。
「自分のために」「自分にとって」という思考も、後ろめたく思わず大切にして、存分に楽しみた
いと考えています。そうそう、「死ぬまでにやっておきたいことリスト」も作らなくちゃ～。

志摩市 高岸 三枝